

令和7年度 事務事業マネジメントシート		段階： 令和6年度実施事業に係る事務事業評価					9002	猪苗代湖の水を守りたい事業【水道】					上下水道局	総務課
1 事業概要		中事業番号											所属コード	471000
政策体系		SDGs	広域事業	総合戦略	セーフ	2025	2030	2040	2050	D X 推進	手段	意図（目的）		
大綱（取組）	V「暮らしやすいまちの未来」	6.1 6.6		2-1							市民参加型の猪苗代湖岸清掃及び施設の見学を実施する。全市民を対象にして、1回目は水道週間(6月1日～7日)事業の一環として5月下旬に、2回目はごみが多い湖水浴シーズン終了後の8月下旬に実施する。また、自らの企画や他団体主催の清掃活動に、職員が積極的に参加する。	事業を通して水源を身近なものに感じてもらうとともに、水源環境保全の大切さや上下水道についての理解を深めてもらう。また、自らの企画や他団体主催の湖岸清掃に職員が参加することで、意識の高揚を図り、水源環境の保全に寄与する。		
施策	4 豊かなまちなみがあり、誇りと魅力あふれるまち													

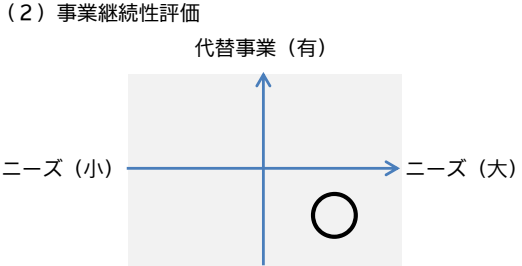
事業開始時周辺環境（背景）	現状周辺環境	今後周辺環境（予測）	住民意向分析
猪苗代湖は、環境省が水質の判断基準として明示している化学的酸素要求量指数の低さにおいて平成14から17年度まで連続で全国第 1 位を誇っていたが、平成18年度から「ランク外」に位置づけられ、平成21年度に再び第 2 位にランクインしている。	令和 6 年度において、一般市民参加による清掃活動を 2 回（6 月・8 月）、本局職員参加による清掃活動を 3 回（4 月・6 月・10 月）実施した。 また、環境省において公表している化学的酸素要求量指数（COD）が低い水域のランキングにおいて、平成29年度に再び全国第 8 位にランクインし、令和 2 年度は全国第14位であったが、令和 3 年度以降はランク外となっている。	一般市民参加による清掃活動の実績は161人（6 月：参加93人/申込97人、8 月：参加68人/申込203人）であったことから、水源環境保全に対する一般市民の関心が高いことが読み取れる。今後とも市民の水源環境保全に対する関心は高まる傾向にあると考えられ、水源環境の保全に寄与できるものと予測できる。	令和 6 年度に実施した参加者アンケート（6 月・8 月）によると、事業に対する満足度 5 段階で評価したところ、高い旨結果（6 月：満足度 4 以上87.5%、8 月：満足度 4 以上91.2%）が出ており、市民の水源環境保全に対する関心が得られているものと分析できる。

2 事業進捗等（指標等推移）			まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		まちづくり基本指針七次実施計画		まちづくり基本指針八次実施計画		次期実施計画		次期実施計画		まちづくり基本指針	
指標名	指標名	単位	2022年度（令和 4 年度）		2023年度（令和 5 年度）		2024年度（令和 6 年度）		2025年度（令和 7 年度）		2026年度（令和 8 年度）		2027年度		2028年度	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	計画	中間指標 2021年度	最終指標 2025年度
対象指標	市民	人		324,586				319,680								
活動指標①	猪苗代湖の水を守りたい事業の開催回数	回	2	1	2	2	2	2	2	2	2		2	2		
活動指標②	水質保全活動回数（職員による水源地清掃、県主催の清掃活動等）	回	4	3	4	3	4	3	3	3	3		3	3		
活動指標③																
成果指標①	参加者数（市民）（～R6）／参加申込者数（市民）	人	120	97	120	81	120	161	200		200		200	200	120	200
成果指標②	参加者数（職員）（R 4 ～）	人	35	38	35	38	35	42	35		35		35	35	35	35
成果指標③	C O D ランキング（～R6）／清掃後の水源地保全意識（市民）	%		-	14	-	14	-	90		90		90	90		90
単位コスト（総コストから算出）	水質保全活動参加者 1 人あたりのコスト	千円		35		32		17	31		31		31	31		
単位コスト（所要一般財源から算出）	水質保全活動参加者 1 人あたりのコスト	千円		35		32		15	29		29		29	29		
事業費		千円		115		157		651	583		583		583	583		
人件費		千円		4,631		3,684		2,708	2,876		2,876		2,876	2,876		
歳出計（総事業費）		千円		4,746		3,841		3,359	3,459		3,459		3,459	3,459		
国・県支出金		千円		0												
市債		千円		0												
受益者負担金（使用料、負担金等）		千円		0					0		0		0	0		
その他		千円		73		68		249	80		80		80	80		
一般財源等		千円		4,673		3,773		3,110	3,379		3,379		3,379	3,379		
歳入計		千円		4,746		3,841		3,359	3,459		3,459		3,459	3,459		
		実計区分	評価結果	継続	継続	継続	継続	継続	継続							

活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費（事業費・人件費）分析結果
・活動指標① 猪苗代湖の水を守りたい事業の開催回数 目標 2 回に対し実績は 2 回となった。今後も水源環境保全のため、事業を実施することとする。 ・活動指標② 水質保全活動回数（職員による水源地清掃、県主催の清掃活動等） 目標 4 回に対し実績は 3 回となった。今後も職員の意識啓発に努め、清掃活動を継続していきたい。  活動指標①の実績は 2 回、活動指標②では 3 回と、前年度比で活動指標は同数となっている。	・成果指標① 参加者数 目標120人に対し実績は161人（6 月：参加93人/申込97人、8 月：参加68人/申込203人）であった。 ・成果指標② 参加者数（職員） 職員による清掃活動について、目標35人に対し実績は42人となった。今後も職員の意識啓発に努め、清掃活動参加者を募ることとした。 （4 月さくらの里クリーンアップ作戦15人、6 月職員による水源地清掃16人、猪苗代湖クリーンアクション11人）	【事業費】 市民参加による 8 月の湖岸清掃において、市制施行100 周年記念事業としてバスツアーを実施したため、前年度と比べると事業費は増加している。なお、実施内容の改善など、随時、事業内容の見直しを随時行っている。  【人件費】 令和 6 年度は、前年度と比べると人件費は減少している。参加者が前年度の約1.7倍（R6：208人、R5:119人）となったが、令和 5 年度まで別日で実施していた水道週間ポスター展を同日実施とし、事業の効率化を図ったことから、当事業に係わる職員数がポスター展に係わる職員 3 人分減少したことが主な要因として考えられる。 なお、より幅広い世代が参加しやすいように、従来行っていたバスツアーを令和 4 年度に廃止し、現地集合・現地解散方式による清掃活動とするなど、事業内容を見直すことにより、総事業費も減少している。

### 3 一次評価（部局内評価）

( 1 ) 事業手法評価		
1 規模・方法の妥当性		3
2 公平性		4
3 効率性		3
4 活動指標（活動達成度）		4
5 成果指標（目的達成度）		3



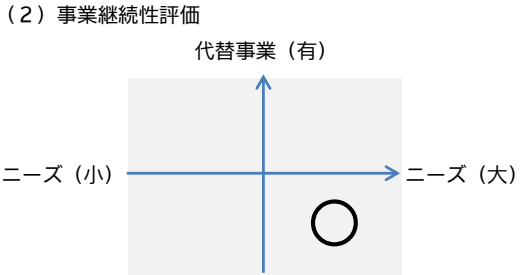
継続	一次評価コメント
当該事業は、猪苗代湖の湖岸清掃活動等を通じて、水環境保全の大切さや上下水道についての理解を深めるための事業である。 令和 6 年度は、市民参加による湖岸清掃を 6 月上旬と 8 月下旬に実施し、職員による湖岸清掃や外部団体主催のイベントに、本局職員が参加している。 令和 6 年度に限り、市制施行100周年事業の一環として、8 月の事業ではバスツアーを実施したが、感染症対策及び参加者アンケートにより、現地集合・現地解散とする実施内容の改善、かんたん電子申請による参加申込を行うなど、随時、事業内容の見直しを行っている。	

5レス	カウンターレス	キャッシュレス	ペーパーレス	ファイルレス	ムーブレス（会議レス）
	○	○	○	○	○

気候変動対応	D X（デジタル市役所）	部局間協奏
○	○	

### 4 二次評価

( 1 ) 事業手法評価		
1 規模・方法の妥当性		3
2 公平性		4
3 効率性		3
4 活動指標（活動達成度）		4
5 成果指標（目的達成度）		4



継続	二次評価コメント
令和 6 年度は、例年開催している猪苗代湖の水を守りたい事業を市制施行100周年記念事業として実施し、1 回のバスツアーに161人が参加した。当該事業に対する申込数は定員を超過しており、水源環境保全に対する関心の高まりが見てとれる。 参加者アンケートにおいても、本事業に対し好評を得ており、清掃活動をおして水源環境保全の大切さや上下水道について理解が促進された。職員による水源地清掃も例年どおり開催され、計画値を上回る参加者数であった。 今後においても、水源環境保全の大切さと上下水道に対する市民の理解を深めるため、継続して事業を実施する。	

( 参考 ) 令和 6 年度カイゼンのための行動計画